



「総合診療科のご紹介」



「どの診療科を受診すればよいかわからない症状・悩みをもつ患者さん」「多くの問題をかかえており、専門診療科ごとの診療に加えて全体的なサポートを必要とする患者さん」「救急疾患として小児救命救急センターから入院要請のあった患者さん」の力になることを目標としているのが総合診療科です。

現代医療において、医療レベルの進歩と引き換えに診療は高度に細分化しており、当院においても非常に多くの診療科によって専門的な医療を提供しております。一方で、上記のような患者さんはこれらの専門診療の「隙間」に入ってしまう、適切な医療が受けられないことが問題となります。このジレンマを解消するために総合診療科が設立されました。

まだまだ歴史の浅い診療科ではありますが、開設して以降、年々患者数は増加しており、現在の年間患者さんは入院で約1400名、外来では約3000名にもなる、当院でも有数の患者数をもつ診療科となりました。総合診療科では多くの患者さんの一つ一つの問題に対応するために、総合診療科医師だけではなく、他の専門診療科、外来・入院担当看護師、家族支援室、栄養管理課など、多くの関係部署と協力して診療しております。病院スタッフ全体でチームとなって、患者さんのもつ問題に対して少しでもよい答えを探し、提案させていただきます。

困ったことがあればいつでも総合診療科にご相談ください。



Concept コンセプト

●**基本理念** 周産期・小児医療の総合施設として、母とこどもの高度専門医療を通じて、親と地域社会と一体になってこどもたちの健やかな成長を目指します。

- 基本方針**
1. 患者の権利を尊重した医療の実践
 2. 安全・安心と信頼の医療の遂行
 3. 高度に専門化されたチーム医療の推進
 4. 地域の医療・保健・福祉・教育機関との連携
 5. 親とこどもが一体となった治療の推進
 6. こどもへの愛とまことに満ちた医療人の育成
 7. 医療ボランティアとの協調による患者サービスの向上
 8. 継続的な高度専門医療提供のための経営の効率化



編集後記

昨今はコロナの話題で持ちきりで暗いニュースばかりが目につきます。ソーシャルディスタンスを保つことは勿論重要ですが、キャンプなどの楽しい体験や性に関する情報の共有など、こどもたちの心の成長を妨げてしまわないように「心の距離」を保ち、こどもたちの成長に貢献できるように努めたいと思っています。(T.S)

委員長：貝藤裕史
副委員長：大津雅秀 松本奈美
委員：深江登志子 黒田隆二
林 卓郎 河本和泉
西澤由美子 井口秀子
寺田朝子 大原晴子
奥田早苗 琉 隼人
時 克志 多々見俊輔
北浦 泰 辛 浩一

本誌に関するご感想・ご希望・ご質問はこちらまで



兵庫県立こども病院
HYOGO PREFECTURAL
KOBÉ
CHILDREN'S
HOSPITAL

〒650-0047
神戸市中央区港島南町1丁目6-7
TEL. 078-945-7300
FAX. 078-302-1023
http://www.hyogo-kodomo-hosp.com/
e-mail:info_kch@hp.pref.hyogo.jp

02病P2-014A4

げんき No.72 カエル

兵庫県立こども病院
ニュースレター



令和3年(2021) 1月20日

ICU再編

小児集中治療科 科長 黒澤 寛史
PICU看護師長 越後 尚子

すべての診療科の枠をこえて、重症なお子さまのために、強力かつ集中的に治療・看護を行う場が集中治療室です。2016年の病院移転以降、当院にはCICU、PICU、ICUという3つの集中治療のための病棟がありました。このたび改修工事を無事に終えて、2020年9月から、このCICUとPICUを統合して「PICU: Pediatric Intensive Care Unit」16床とし、ICU11床は「HCU: High Care Unit」と名称変更しました。工事期間中、皆様にはさまざまご不便をおかけしたと存じますが、辛抱強くご協力いただき、誠にありがとうございました。

昨年、当院は病院機能評価を受けました。改修工事前の3つの集中治療のための病棟を評価していただいたわけですが、その結果全ての項目で最高の評価を受けました。つまり、その時点ですでに、集中治療室として果たすべき機能を十分に果たしていると評価していただきました。しかし、「現状維持は後退の始まり」との先人の教えもあります。まして医療の世界は日進月歩ですから、常に前に進まなければなりません。想定外の事態や、自然災害発生時などにも、即座に柔軟に対応できる体制を、常に整えておく必要があります。

新型コロナウイルス感染症もその「想定外の事態」の一つでした。

この度の改修工事を伴った変更は、より質が高く、安全で、効果的、かつ効率的な集中治療の提供を目的として病院移転後に見えてきた様々な課題を詳細に検討し、時代の変化に対応できる柔軟さを持ち合わせるために5年、10年先を見据えた前向きの変更です。もちろん、今後も多くの課題が出てくるでしょう。今の集中治療室も完璧なわけではありません。私たち集中治療に関わるスタッフは、一丸となって、みなさまに常に安全と安心を与えられる存在となるために、これからも尽力いたします。





コロナが落ち着いたらやりたいこと 笹田 陸斗

僕は2020年4月で中学一年生になりました。赤ちゃんの時から何回もこども病院に入院したり退院したりを繰り返して、みんなにとっても心配をかけたそうです。

僕は生まれた時から、みんなと同じご飯が食べられません。塩分が入っていないご飯にしないとすぐに脱水になってしまう持病があります。すぐに喉がかわくので、お水も毎日たくさん飲みます。外食はあまりできません。レストランのご飯はほとんど味が濃くて塩分が多いからです。小学校の時は給食も食べられないので、お母さんに毎日お弁当を作ってもらっていました。

小学生になって、入院することもなくなって、家でおばあちゃんから料理をたくさん教えてもらいました。今は、自分でご飯を作ることと、キャンプにはまっています。キャンプに行った時も自分でご飯を作ります。キャンプで食べるご飯は、家で食べるご飯の何倍も美味しく感じます。

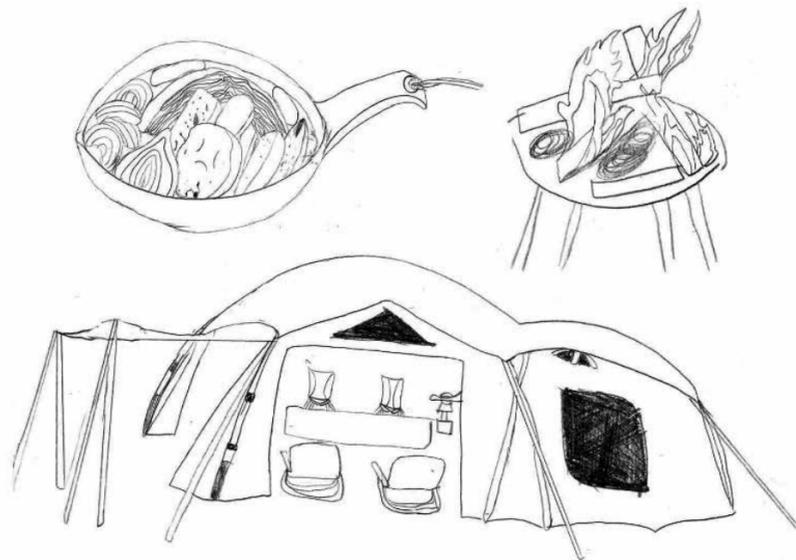
去年はテントを買ってもらって、家族でキャンプに何回か行きました。淡路島の海岸にテントを張って泊まりました。テントは家族四人で、動画を見たりしながら協力して建てました。ポールを一本一本通すのが大変だったけど、割と簡単でした。炊き込みご飯や、ポトフを作って食べました。

すごく美味しかったです。夕方は海で釣りをして、夜はたき火をしました。火を見ていると、暖かいし落ち着きます。

去年キャンプに行ったとき、大潮の日で寝ている間にだんだん海の水位が上がってきていて夜中にトイレに起きたら、テントが水浸しになっていてびしょ濡れで、みんなで濡れながらテントを移動させたことがあったし、料理の時にフライパンが落ちて焦って手で触って、やけどをしたりしたこともあったけど、キャンプが楽しくてしかたないです。

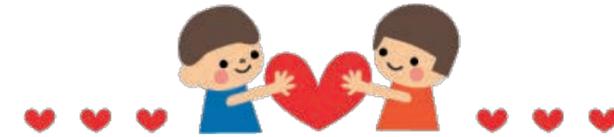
あとキャンプの良い所は、僕は持病のほかにも成長ホルモンが足りない体なので毎日注射を打っていますが、キャンプに行ったときは注射を休めるのでそれも良い所です。今年はコロナであまり行けていませんが、来年たくさん行きたいです。

高校は、アウトドア系の部活があるところに行きたいし、将来もアウトドア系の会社で働きたいと思っています。なので、今は勉強を頑張っています。アウトドアの本もたくさん読んでいます。キャンプに行ったことが無い人がたくさんいると思うけど、星がとてもきれいに見えるし、自然のなかで寝たりご飯を食べたりするのは本当に最高なので、みんなも行って欲しいです。



大人への階段をいっしょに上ろう！ 「いちごクラス」を知っていますか？

外来・産科病棟



2019年9月より外来で、産科スタッフが担当する「いちごクラス」を始めました。

「いちごクラス」では、小学3年生以上のお子さんを対象に、こころとからだの変化や生命について、おうちではなかなか話づらい性についてのお話をしています。

こども病院に通院されている患者さんは様々な病気で治療をされています。病気や治療の状況により異なりますが、妊娠や出産で病状が悪化したり、治療の副作用が胎児に影響する場合などがあります。また、近年では若年での妊娠も問題となっています。成長に合わせてお子さんが病気や治療と共に妊娠や出産による影響などを理解できるように主治医や外来看護師がサポートさせていただきながら、産科スタッフが「いちごクラス」でお子さんの状況に応じて関わらせていただいています。

保護者の方は、多感な時期である思春期を迎えたお子さんに、『性教育なんて話す内容も難しいし苦手』『家ではなかなか性教育ができない』といった悩みもあると思います。

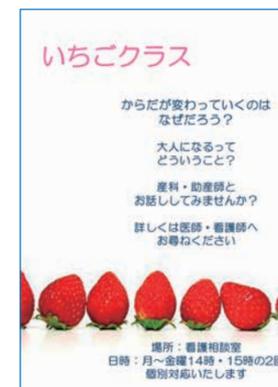
お子さん自身は、『聞かなくて恥ずかしい』『なんとなく分かっているから大丈夫』とじているから大丈夫』と思っています。多感な時期だからこそ、正しい知識を身

に付け、こころ豊かにすこやかに思春期を過ごし、こころとからだを守ってほしいと思います。「いちごクラス」では身体の変化について、お子さんと一緒に考えること、他人事にせずセルフケアできるようになることを大切にしています。性の問題は特別なことではなく、誰にでも、いつでも、ふとしたきっかけで起こりうるものです。そんな時に保護者の方やお子さんが困らないように私たちがサポートできればと思っています。

病気と向き合いながら、からだこころを大切に成長して欲しい！！という思いのもと、明るく・楽しく・わかりやすい、をモットーにクラスを開催しています。大人へ向かう大切な時期、あなたのこころとからだのことについてホソネの話をしましょう！

実際にクラスを受けてくれたお子さんからは、「わかりやすかった」「知らないこともあったから聞いて良かった」「楽しかった」などのご意見をいただいております。

「いちごクラス」の話を聞いてみたいと思われるなら、ぜひ外来看護師または主治医へ声をかけてください。私たちと一緒にステキな大人への階段を上っていきましょう！



いちごクラスのポスター



クラスの様子